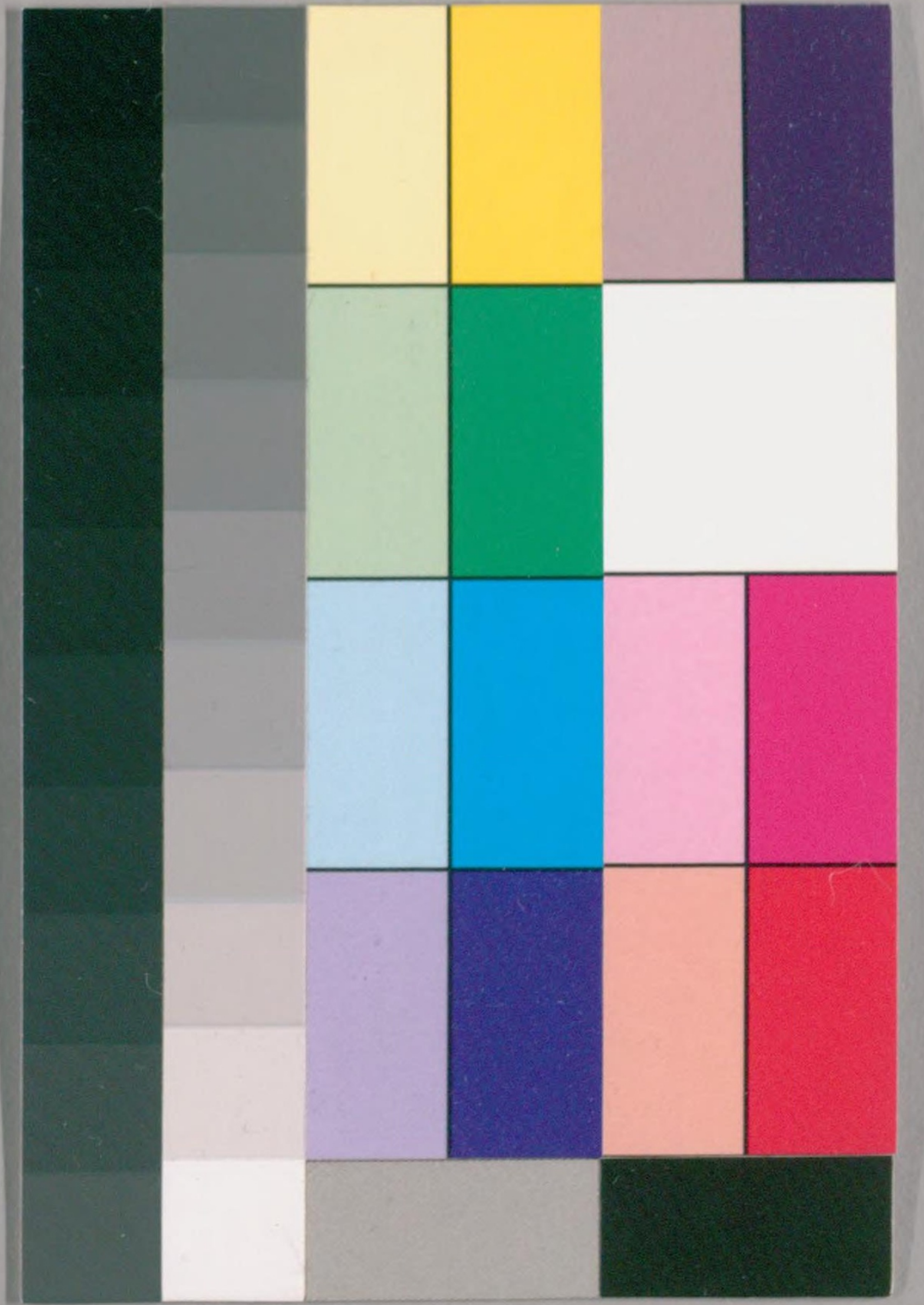


新撰朗詠集 上

851

6



国立国会図書館 タイトル『新撰朗詠集 2巻』 請求記号 851-6

ガラス使用

新撰朗詠集

上

851
6



国立国会図書館

タイトル『新撰朗詠集 2巻』 請求記号 851-6

ガラス使用

隆法たかほりの集あつをたるる不ふ流りゅう布ふ一いつ故こ今いま漢かん梓し而以もつて
行世かよ而已なり
皇都書林 尚文館

新刻 安永

新撰朗詠集

平かき付 全

二に系けい家け和わ号ごう元げん祖そ和わ漢かん才さい人じん也なり
山さん新しん撰せん朗らう詠ぎやう集しゆ八はち卷まき系けい系けい門もん仿たう基き俊しゆん之の
撰せん也なり基き俊しゆん之の後のち成なり卿きやう和わ歌か師し匠じやう
二に系けい家け和わ号ごう元げん祖そ和わ漢かん才さい人じん也なり

行世河内
皇情書林
尚文館
新撰朗詠集卷上

深廣
安永
像野朗詠集
全

二卷家
新撰朗詠集卷上
九

新撰朗詠集卷上

吉田待郎氏 寄贈本

春

立春

早春

春興

春夜

子日

若菜

三月三日

暮春

三月盡

国三月

颯鳥

霞

雨

梅

付红梅

柳

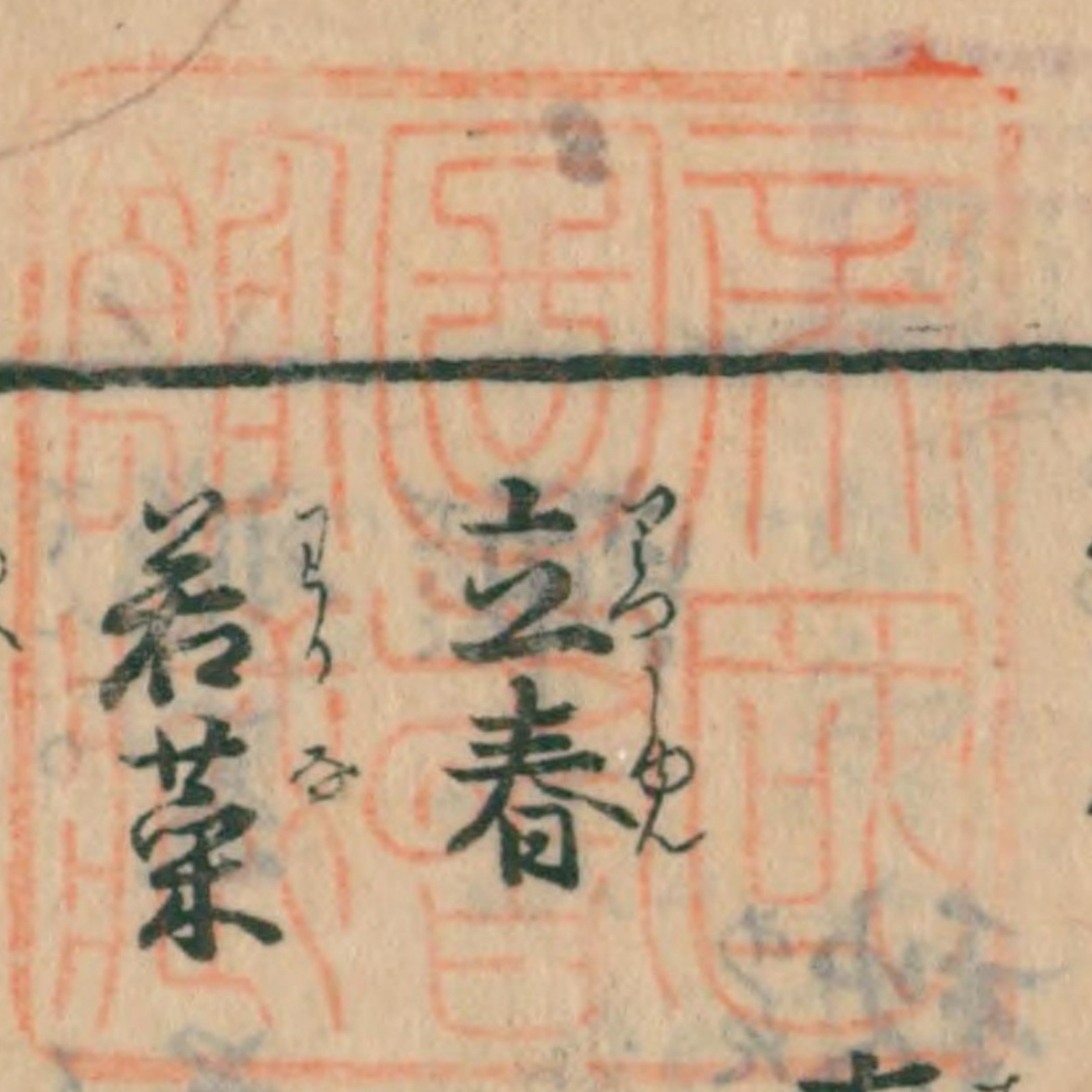
花

付花

躑躅

歎冬

藤



851

新撰

夏なつ

更衣かへぎ 首夏くびなつ

夏秋なつあき

端午たんご

納涼なすや

晚夏ばんなつ 花摘はなとり

蓮れん

郭公かくこう

螢へい

蟬せみ

秋あき

立秋りゅうきゅう 早秋はやあき

七夕せちや

秋興あきこう

秋暮あきくれ

秋夜あきのよ

十五秋じゅうごあき

付月つきづき

九月くがつ

付菊きくづき

九月盡くがつしん

女郎花むすめはな

萩はぎ

蘭らん

槿きん

前栽まへざい

紅葉もみぢ

付萩はぎづき

雁かり

付砵ひしづき

虫むし

鹿しか

露つゆ

霧きり

擣衣うしひ

冬ふゆ

初冬しよふゆ

冬秋ふゆあき

歳暮としごけ

燵火かどび

霜しも

新撰上



雪入水

付春少

霰

佛名

付除夜

Faded text in the right-hand page, likely bleed-through from the reverse side.

立春

菅家集

浅深何水冰猶結高卑無山雪不消

浮雲自後寒夜暖壯日如今去不歸

少一乃... 貫之

春無跡至多尋得老迹此来志避難

と... 紀

新撰上



早春

林外雪消山色静窓前春浅竹影寒白
 及之於深水則文漪動而雲鱗騰着
 之於幽溪則彩雲暖而黃鶯啭
 烟生村巷遠知柳雪積牆陰暗辨梅
 不醉爭梓温樹下建春門外雪埋春

都良香
物部真
善相公

巖松雪宿暗山北岸草烟濃藏冰東

橋
在列

みしほけふはのらむこころあはれ
 ありしはのほゆふとぬれぬふらむ
 見しは乃ははふれぬらむかきぬも業
 むとほくもさうらひあかんしと
 おふさりのまをさやうらむれあむらん
 おくえれやまのまさひらめれ

橋俊彌

春興

緑油葉葉蒲新長紅端粘枝香欲開白



指^{さし}糸^{いと}纒^まる^る北^{きた}轆^り

泉^{いづみ}三^{さん}郎^{らう}

しほりよはらそほもひおとかり
まゆりよはらそほもひおとかり

子^こ日^ひ

嘯^{せう}野^の煙^{えん}之^の表^{ひら}光^{かり}者^{もの}吟^{ぎん}一^{いつ}句^く酌^{しやく}山^{さん}霞^{せま}之^の

在^あ列^{れい}

晚^{ばん}矣^や忽^{いつ}醉^{すい}數^{すう}盃^{はい}

まのうらふなくづひよのこゝとこ
ころのうらふなくづひよのこゝとこ

むめこまのむねをむすははのひし
みせとあらむすははのひし
免^{めん}つ^つよよみせのむねのひし
はらとあらむすははのひし

若^わ葉^は

義^ぎ忠^{ちゆう}

若^わ葉^は野^の外^の和^わ葉^は王^{わう}便^{べん}是^し極^{ごく}梅^{ばい}鼎^{てい}足^{そく}是^し也^{なり}

かすしれみははのむねのひし
むねのひし
まきんくむねのむねのひし
ころのむねのひし



新撰

かろひのうきをうらみあそびて帰家
夕暮りてあけぬらうらむ

暮春

惠文季

渭水橋遠去已度灞陵原上雨初晴

霞消李老半踏風去茅君白鶴峯

伴家難盡餘花勢訝雪未收好鳥聲

ちろくぬみでさあけくやまかハ乃
婦くもたはゆの可りふさるる那

明 衡 六 條

のまはくろくあめくおろけはる年れうらふ
たはぬハくくくくくくくくくくくくくくくく

二月盡

業平

四十六日二月盡送春幸以不懸數

林間綴有殘花在留到明朝不是春

人只送春吾送也驛裏無以鶴欲何啼

花居宴晴携未の登山流水送初晴

李 方 菅 三 品 中 書 王

火是帝腰新折後紅夜更白環梅辰 同

多映新新泥柳黛光燒木秘嶺松煙 朝公

々々々々々々々々々々々々々々々々々々 朝公

々々々々々々々々々々々々々々々々々々 朝公

々々々々々々々々々々々々々々々々々々 朝公

雨

々々々々々々々々々々々々々々々々々々 朝公

花艷渾女啼粧淚水似吳娃吟舞筆 温傳

斜柳綠也紅女之手難換玉切粧質 必言

深來墨子之淚尚燃其愛 必言

柳眼剪波春黛綠抽款流汗宿粧紅 家紀

寫得楊妃湯後癯換成任氏汗朱唇 明英

尾據肉得妃容美活毒樹是毒女妓啼 高

行異



るの乃おのふあやがりみさゆふさりや
花まのこやうとまらこまむら舞
さゆさんれこれのあさりうりあを
な依しそめさちかりやうのあや

梅 付 ぬ ぬ

敏 初

新 祥 惡 處 微 々 落 海 氣 重 河 勢 々 冨 白
芳 馥 入 簾 夜 添 薰 霧 之 氣 勢 々 逼 砌
歎 泣 春 流 之 波

多 馬 茂

瑠 璃 廉 爲 雖 相 邀 非 翠 簾 跡 亦 不 妨
羌 兎 垂 曲 接 紗 酒 至 女 別 粧 深 曉 風
半 深 秋 毫 浮 硯 水 斜 薰 春 砌 入 珠 簾
南 薰 風 与 菊 枝 色 計 會 一 雨 不 每 香
あ 海 々 乃 乃 も う ち ろ と ぶ び ち 此 々
い ろ と ち ち ち も ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
わ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

御 製

天 曆

御 製

頃

係

時 編

係

係

係

係

係

係

係

む光うとくしこのあけし此物よきあけく
月々新やれ中のあけくふもつらうら

新言

お梅

芳丹庭白為葩便是春風之裁出凝

萬茂

終雪白化蒙豈北暖西之深成

葩皆之重不以流俗之樹也自再入

順

無待深人之切

洞深艷是仙方書水逝夜東海岸也

不唯我愛人來電一序紅粧也美全

之選かな井みい好となうそ梅のうら

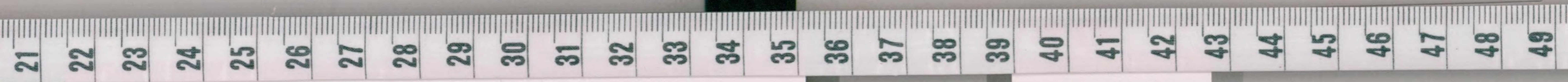
かりあけくよあけくはけりくる

おけつらうられさあけくむ光れけ

定法

柳

不知細系誰裁也二月春風色芳刀元



居席言深外打門煙裏く紅衣曉房

相兼驛月蒼々

白雪毛盤を撰地緑緑枝弱不勝寫

彭宅門深甚緑深茂昌橋暗莫煙深

春娃眠足驚衾中老將腰疲鳳釵意

曉眼不眠此夢蝶春腰去力款搗鴉

双言

白

嵐保

双言

名弁

みられ人のくら花本乃やまよけられし
あそびさきひりしや志のこもそす
ゆらきしれみくまのあきれたらぬくく
あうそあやかしあきかんしうらも
りさみしらもあてみくあめとやまの
いそをこしゆのちややく残む

花

是則

菅家

万済

五般嬌分味玉春棹窓与沙渥之間
縁帷禽了れ眠曉着茶芳書快之下

白

名弁

新撰上

廿一



遠藤十二因縁あり多勝之子世男花相公
 句同唐帝の房女粧嘆美賢一里兄の言
 門賓拈錫聖到及園婦孤羨是姑春同
 陸飛雲出於子條書改入松村一子意田原 中興云 定教
 為蒙深衣春拂雪流粧冷酒曉射展菅 之義
 漢相園困を操書曹王園萬歲廣春の

校致新鳳拙源月浪織藻新柳岸風時棟
 六十餘回看未飽地生定化屯苑人佐園
 粧舞鳥鴉家園露香龍馬勢臨塞風源 威字
 あさみららの人れかすこいけりめとと
 ちほきくちほふたれさうやまほとん
 ちほきそひもさひもさひもさひもさひも
 ちほきそやのありかたをさき
 ちほきそめあめあめあめあめあめあめ
 ちほきそはひとやあはさま



落花

庭沙風を婉轉廻雪之袖暗裏に敷

泉を婆娑安房の琴遠和

匡衡

遠馬斯晨風之中蹄踏狂竹之雪征

夜過夕陽之下袖織回文之處

以言

雲層路濕霓裳裏風力橋高錦繡明

儀備

胡開春暮維留雪填寢月荒秋如春

明衡

親王

涪水流回横宿宮天津月下波殘去

轉任

脚端

風嬌舞舞香不盡露清粧臉淚新乾

白

新撰上

婦一かたのこゝろをさへしれまひのむら
ころしつゝさへしつゝさへしつゝさへし
頃

夏

更衣

獨着者馬術澄穂初着單衣支體輕
締衣新製後子蔭後殺恰倫竹与練
けつゝけつゝけつゝけつゝけつゝけつゝ
やまほしきひきまほしきひきまほし
家 家 家 家 家 家 家 家 家 家
白

首夏

長恨春ぬ実見處不知入此中素白
林蘿涼也越清涼移榻開襟夏回長
さうれゆるるるるるるるるるるるる
さうのんかーいりりりりりりりりり
好忠

夏夜

日長秋短懶晨興夏漏遅の睡郭云
家 菅

新撰此

月沈藻藻銀鉤秋風觸松枝玉簪輝
田忠臣

水煙空濕綉羅冷山月物昇橘園竹
儀同

芥のうらよけしほれりさるれや
中務

けうきくあけくもあきあきあをわらと
源養父

くもれいほとけさるららん源養父
ゆほとみさるらよひくぬきぬきは
おしんをりんとやらのとれけある海

端午

五月萬蒲素得名每逢五日已成靈
菅

あしよれをまほしきまほしきまほしき
祭書撰

らやめののらさ乃絲くさくさくさくさく
祭書撰

細涼

緑竹掛夜涼又胡蝶風度草園時眠
白

翠鳥知随念遍清涼寺與人同
同

新撰此



新撰

桂月清の夏連一霄之煉松風蕭飒

晴夕百尺之雨

君書風情炎虐冷我富霜鬢交中林

銜秋水子巖冷礙日林回六月寒

扇尾岩鶴ゆ嵐翅尊借隣鷄鼓月暮

そ海かしのつらつらとれらにうら

善相公

橋

直

幹

江

時棟

好

忠

かほやうれきうのえそくゆんされえ
あしあふらあしあふらあしあふらあしあふら
源頼朝

花橋

珠顆形言乃日長瓊漿氣味切霜成

盛夏花苗之伏雪散冬子變一株金

厚とらくそぬさらそまはほらさう

さばあやうさうさうさうさうさう
さばあやうさうさうさうさうさう
相模

花山院

新撰止

晩夏

以言

日催鳥羽黃暉去風報金高氣味幽
おほあつとこれらもの志こころ志くらあひて
うくもかひ乃さうりりくぬり那
かひとつさきゆふうれうらひら
かえすしきさやうくぬれ 弱恒

蓮

露涼中深眠沙鶴風冷終苦蕙感深魚
つるうたてきぶさゆほろつきまよるる
名存

落流濃色殊風脆打岩空想映浪
あんなん
湖客行跡意自狂波后夜錦袂何需
心あしとけらとれまらやゆらん
うたうたもふはしをむしとる

郭云

日不月更交雲外鏡二三交後雨申言
みやまのてしよつやまきけらほらよ
あつはよかきくしと乃委あも子美盛

新撰

廿九



新撰上

新ぬよしそかをけりらわきほしき
くほらそされちしとよし
又やおとく新くゆつちや
そ尾まををよとく

螢

倍須每
一系院

翠箔焼新妹酷く碧雲星透晴煌く
蘭蕙香遍飄不濕葦葭交裏乱於池
葦葭渚誤珠字浦竹葦村春好映虚

富菅
軒連

いさそ大乃海人ぬかそとんはけあそ
さりんのうらそはさるからさる
をゆととそそみほふりあそ
かくひしそそあそれあそり重之

蟬

邑即死後能琴瑟可憐松柳風底先何尋
岸柳緑葉春秋總宮槐風底先何尋
響後紅霞殘槿下吟空緑重老槐間

院系
流保

新撰上

あはれうにささるけれりかみ
あはれうにささるけれりかみ
あはれうにささるけれりかみ

秋晚

方千

入橋早月中秋夕遠郭を遊す夜吟

あはれうにささるけれりかみ
あはれうにささるけれりかみ
あはれうにささるけれりかみ

秋夜

早菘鳴渡歌残燈清又の隔定知秋白

西芭蕉先有吟

梁鷄梅白遲唱笛吹白子初之隣漢

月暎白雞傾砧然楚居魚之舍

晴風飄幌秋殘漏滴階輝壯齒今何

在終宵動旅情

宮海高任風小送隣砧緩魚月西傾 同

後中書

奇名

新撰集

枕歌陸奥清高曲念前林暗漢紅
美事皆非地下淚一生才書月有情
上陽宮裏天難曙散詩有頭後易苦
くされらんうさたそあせりされよの
けりよよしかかぬわのみとわらん
形のしとをがしそとてわひし
あふせしわりのあされようれし
舒順

十五夜 付月

花陽洞哀憐壇上今秋清光此處多
長安十二街皆踏可嘆之霜萬葉千
美事皆非一家之月
善相公

三十名之里躰遠浮於水鏡之面
不万回子之去懷自記水臺之心
螢火幽光清不自尋綠意交混那為
都在中
正通

新撰集

十五



新撰上

畫夜和風迷漏刻乾坤朗照玄黃

南門曉氣東西海八月林深十又天

琴詩酒客子家思二十六旬一秋情

以此とともけさみぬあはさふおと
月夜とともけさみぬあはさふおと

月

親故適回駕妻奴未是周周鳳池上

月送我色高山

老恒香山初秋秋逢白月正後時

溪今便是家山月試問清光知不知

異人掉而高秋江波水寒流馬嘶而

歎賦野草霜深

高人掉雪秋浪浦危將踏霜立我樓

新撰上



新撰

女郎花

一叢百朵入穠茂美之花中無比也
列在

天生花繁枝香冷地与英靈交芳黄
言以

即く〜にみま〜あ〜と〜あ〜
去後

乃く〜やあ〜い〜と〜い〜
去後

萩

橘山堂

一秋有葉号花麝子房对出草奢
表菱

あはれかせいす〜
同

わき〜く〜色あけ〜せんもきめ
長

蘭

菱之品

波句遠骨入秋水雨深る初動音也
言以

魏文名歌と卷月燕羞子侍美代風
言以



新撰上

為深為淺風洋晴何業何紅為新秋同

やうりせり一ちよのめいこみ妙一ころり

權

蘇子落櫻袖紅濕池鰾早荷玉露

れそそみんとおのひ一ゆふのれよきり

ありともまたのむつふよしよ此中を

新裁

西宮南内多秋葉落葉海沿紅不掃

子月各名傳早熟尚風裁穢領新裁

榮枯大底恒園露早晚由來奈野煙

みりりかなりちりりりりりりりりりり

紅葉

新撰上



紅葉又お葉連等之嵐浅深蓋也又

蒼翠の斜老之雪遠辺

お林のこ有重言日素餐夜之文緑春

紅葉嵐深冬晴雨蒼花日暮餐夜之雪

山雲林後海霧船聖宮初来穿珠斜

いづれはたきし志くれみもみちらこも

いけくろくろあ海とやしくんのみらたは

落葉

為家候微風以墮風之力蓋家之雪

遭飛門の位類之感己未

征馬鳴河林踏仙家之雪宿禽斂翅

秋柄一枝之風

新撰集



新撰山

三十一

さだわらうかられかきもやむらひらぬ
ののりふやまのいれ乃く人のけむ右今
ころれそふはゆもくさるひりれかき
くも乃くしきもさるやふりり舞

霧

源相吉

後撰

清深於暗千峯曉濃淡粉分不里初
あけすらふひりあきさのあひり
ひふさうやまはさりとあきくさり
ゆるしけさけみり乃くれさるれあ
ししのりさりとあれいしきり那

掛衣

江納書

宿鷹野東書飛上林之霜忠信何在暮
妾持衣泣南掛之月良人未帰
掛自金懸秋書冷催於素月秋來晴
色多霜系菊林交於混雲鴻也塞群
客始知乾林韻遠嬌園書冷曉夕登

新撰山

三十一

後撰



林亭織着首線縷沙渚堂來白水精家菱
 寒鳴自夜三危結暗房先和玉妝清家紀
 寒報泣去如難留境又載來綿不完中玄
 うらたのぬもひきねいとら此
 まりけのしきまさされ
 雲白雲
 春客訪我客也烟塵公看月從中樓玄何

廻媽秋扇已亡色孫子歎書獨有河弘仁
 園夜行初明月地人間却踏白雲天田忠居
 胡塞野花を志る巴山奇月を動人る時
 地白程建傳年秋山の不信為是光江野
 やまもはけゆさゆりほそみらも所
 うあらんあくとありれいと奔魚堂
 中何即のいもささくはららん
 少あくはれあまのゆさくれ泉守

新撰上

21



世にうらふらみもあはれやまはらへ
目れうらふらみもあはれやまはらへ
後絶物

氷

石懸凍葉風来様氷衣粘り又は難逢
お改

光難逢葉の春消る持似る龍魚面程
お改

心く波くハあちれれきひらそく
お忠

表

お忠

春未日候危ん立曉後霜凝踏足行
お忠

長河暗洋抗同意古波徐穿馬踏危
お忠

まふらあにさハのあはれやまはらへ
お忠

霰

お忠

念佛山僧考舎利名醫乃士性銀丸
お忠

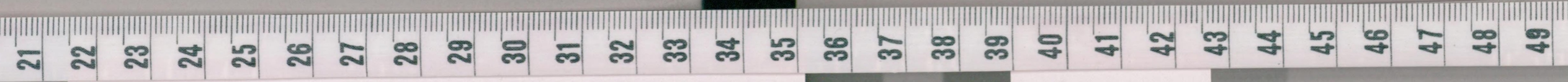
あまのしめあはれあまのしめあはれ
お忠

新撰上

四十一



851
6



国立国会図書館

タイトル『新撰朗詠集 2巻』 請求記号 851-6

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『新撰朗詠集 2巻』 請求記号 851-6

ガラス使用